

龍 竜谷通信



令和6年6月
第3号

げんきな子
がんばる子
すなおな子
くふうする子



学区の方々に温かく見守られ披露した、上学年の旗の演技と下学年のリズムダンス（下）

つながる思い

校長 手島 露子

風にひるがえる赤青の旗と、力強く空気を切る音。素晴らしい青空のもと、学区共催により行われた「竜谷スポーツフェスタ」。本番でのたくさんの笑顔と歓声の裏側には、こんな物語がありました。

子供たちの下校後、職員室から、熱心に話し合う声が聞こえてきました。グラウンドの図面を広げ、音楽や手具の選定、振り付けに隊形移動など、様々に検討を重ねる担任の先生たちでした。そして数日後、学校に届いたのは、六十一本の大きな赤青の旗。今年の上学年演技のイメージが、色鮮やかに広がり始めました。

練習が始まり、さぞかし熱が入っている頃だろうと様子を見に行くと、一番に聞こえてきたのは「ほめ言葉」でした。「よく揃ってきました。かっこいいよ」「今日はここまでできました。素晴らしいね」。出来栄えのよい演技を求めていけばいくほど、叱責の一つも飛びそうなものです。しかし、それをゴールとせず、出来たことをしっかりと認めて称えることで、表現することの楽しさを実感してほしい、自信をもってほしいという、担任チームの思いが伝わってきました。

予行練習では、上学年と下学年が、互いの演技を正面の特等席から見合う時間をもちました。下学年の可愛らしいリズムダンスは、上学年に見守られることで、一層力がみなぎり、笑顔も輝きました。そしていよいよ上学年の演技。担任たちの思いをしっかりと受け止め全力を發揮する子供たち。その姿を、食い入るように見つめる下学年の子供たち。それぞれの思いがつながり一つになった瞬間でした。



山のみどりと鳥の声

「協力の力」と書いてパワーと読みます。
 ちょうせんする力、助ける力、いろいろな力がある。
 その力をすべて、山の学習で使いました。

山の学習を終えて、5年生の教室に掲示されたカードには、それぞれ心に残った事柄が、ことばや絵で綴られています。

その中に、上にあることばを見つけました。5年生が一つのチームとなり、いくつもの楽しい体験活動を通して、しっかりと学んできたことが伝わってきます。この学びを普段の生活の中に持ち帰り、さらなる成長につなげてほしいと願います。



竜谷っ子のきまり —「遊び編」—

あそびへん

41,894 m²。これは竜谷小学校の校地の広さです。市内でも大変広い校地をもっている学校の一つです。どのくらい広いのかというと、名古屋ドームのフィールドの面積が13,200 m²ですから、その3倍以上もある計算となります。

竜谷っ子がこの広い校地の中で、安全に楽しく過ごすためには、一人一人が考えたり、気を付けたりしなくてはならないことがたくさんあります。

今年から、教室に「遊び方のきまり」が貼られるようになりました。遊んでよい場所や、気を付けたいことが書かれています。よく読んで、楽しく安全に遊びましょう。

まなびの窓



4年生 国語科指導員との共同授業

「竜谷っ子の学びのために授業力を磨きたい」これは竜谷小の先生たち全ての願いです。どうしたら分かりやすく、どうしたら楽しく、どうしたら竜谷っ子の成長につながるのか。日々、試行錯誤しています。研究授業なども定期的に行いながら、竜谷小教育の一層の充実に努めていきます。



稲の生長の様子を間近で観察

3、4年生の総合的な学習の時間で、「バケツ稲づくり」に取り組んでいます。農協の協力をいただきながら、竜谷学区にたくさんある田んぼの中で起きていることを、間近で観察する試みです。